

いのちをつむぐ脈々と



愛仁会看護助産専門学校  
Aijinkai Nursing and Midwifery School

助産学科

いのちをつむぐ脈々と

母体の中に小さな小さな生命が誕生した時から女性の健康を守る。

妊娠、出産、産褥、新生児ケアにいたるまで、「脈々といのちをつむぐ」それが助産師の仕事です。



▶教育理念

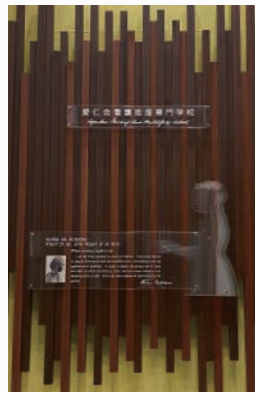
本校は、自主性と和の精神をもって、人々の健康で豊かな生活に貢献する看護師、助産師を育成する。

▶教育目的

本校は、看護専門職としての知識と技術を教授し、高い倫理観と使命感を持ち広く社会に貢献できる助産師を育成する。

▶ごあいさつ

本校は、社会医療法人愛仁会の理念のもと、広く社会のために「貢献」「創意」「協調」することをモットーとした、高機能で多彩な愛仁会グループの各施設で活躍できる看護師、助産師の育成を目指し設立されました。近年の社会情勢、医療を取りまく環境は大きく変化しており、若年層の経済的な不安定さからくる結婚・出産の躊躇、生活費の高騰による子育てに係る経済的負担、性役割の固定観念による女性に対する家事・育児負担により、日本は少子化の一途をたどり、出生数が80万人を下回る時代となりました。助産師は新しい命を育む女性の傍らで支え、ケアを提供する存在であり、助産の基礎的な知識・技術をもとに、女性とその家族を尊重し、女性の一生の健康を支援する職業です。社会の変化を捉えつつ、女性や家族の人権擁護、倫理的配慮の視点を養い、フィジカルアセスメントをベースとした臨床判断能力を身につけることが求められます。本校は、「自主性と和の精神をもって、人々の健康で豊かな生活に貢献する看護師、助産師を育成する」ことを教育理念とし、「確かな実践力、人間力でいのちを支え、育む」自律した助産師になれるよう助産教育に尽力しています。専門職としての自覚と責任をもって真摯に助産を学び、目指す助産師像が明確に描けるよう、学校職員一同皆さんの成長をサポートしていきます。この学校で、皆さんの夢を叶えましょう。



副学校長  
藤尾 泰子

教育目標

- 1 人間の尊厳と権利、多様な価値観を尊重し、相手にとってよりよいケアを追求して誠実に行動できる基礎的能力を養う。
- 2 助産の対象である女性と子ども、家族への理解を深め、人間関係を築き助産ケアを提供できる能力を養う。
- 3 新たな家族の形成や、女性の生涯における健康を(継続的に)支援するため、科学的根拠に基づく助産の判断力と実践力を養う。
- 4 次世代を育む母子や家族の健康支援に向けて、保健・医療・福祉チームの一員として、多職種との連携・協働ができる基礎的能力を養う。
- 5 助産師としての誇りと責任を自覚し、自律したケアを実践するため自己研鑽し続ける姿勢を養う。



アドミッションポリシー 本校が求める学生像

- ① 生命に真摯に向き合い、誠実で思いやりのある人
- ② 看護を実践するために必要なコミュニケーションスキルを持つ人
- ③ 助産を学ぶ上で必要な基礎的な看護の知識・技術を身につけた人
- ④ 相手の身になって考え、周囲の人と協力し合える人
- ⑤ 主体的に学び心身ともに健康な人

「私たちが丁寧に指導します」



# 本校の特徴

## 1 実践力「助産技術」「健康教育技術」の確実な習得

- ・講義、演習、実習を連動させたカリキュラム
- ・NCPR Aコース、ALSOプロバイダーコースの学内開催
- ・分娩直接介助10例+外回り介助10例以上の確実な実践
- ・地域の妊婦・母子、小学生への健康教育の実践
- ・助産師の地域活動について学習する機会が充実

## 2 豊富な症例と実習体制の充実

- ・病院実習はすべて愛仁会グループ施設
- ・ローリスクからハイリスクまで幅広い学び
- ・マンツーマン指導と学校と臨地との充実した連携体制

## 3 臨床助産師、卒業生の演習協力

- ・将来の同僚(後輩)として学生を育てる
- ・複数の助産師協力による少人数制演習

## 5 助産教育の質を保証

- ・日本助産評価機構(JIME)による助産教育認証
- ・助産教育の質を評価された全国でも数少ない認証校



助産師国家試験合格率 100%維持(2018年~2026年、9年連続)

愛仁会グループ施設への就職支援

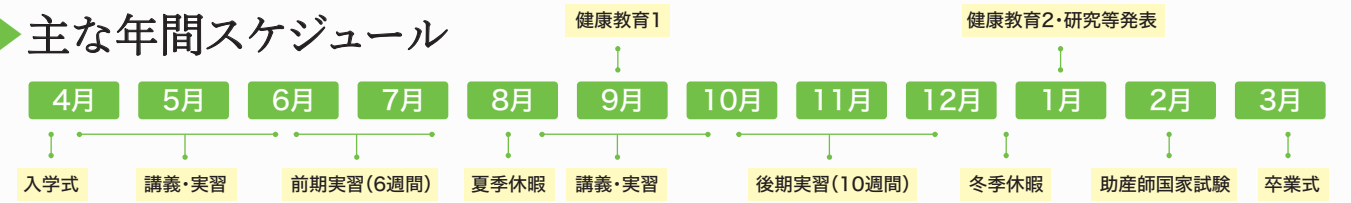
## 卒業後の資格

- ・助産師国家試験受験資格
- ・受胎調節実地指導員
- ・新生児蘇生法専門コース(NCPR Aコース)
- ・ALSOプロバイダーコース(産科救急)認証



# 教育概要

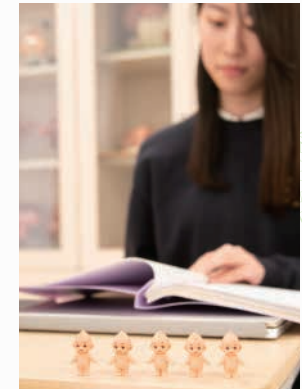
## ▶主な年間スケジュール



- 授業時間
  - ・1時限目 9:00~10:30
  - ・2時限目 10:40~12:10
  - ・3時限目 13:00~14:30
  - ・4時限目 14:40~16:10

- 実習期間  
実習時間
  - 前期6週間(6~7月)、後期10週間(10~12月)
  - 8:30~16:30(1日7時間)
  - 分娩状況により実習時間延長や夜間・土日の待機があります。

- 休暇
  - 原則、土日祝日
  - 夏季・冬季長期休暇 合計6週間
  - \*休暇日にも学会や実習があります。



## ▶カリキュラム

講義・演習科目				実習科目
基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産学概論</li> <li>・助産学研究</li> <li>・生命倫理学</li> <li>・女性の健康科学</li> <li>・妊娠・分娩・産褥の生理と病態</li> <li>・新生児・乳幼児の生理と病態</li> <li>・助産師基礎力の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産診断技術学総論</li> <li>・助産診断技術学Ⅰ</li> <li>・助産診断技術学Ⅱ</li> <li>・助産診断技術学Ⅲ</li> <li>・助産診断技術学Ⅳ</li> <li>・助産診断技術演習</li> <li>・周産期ハイリスクケア論</li> <li>・ウイメンズヘルスクエア論</li> <li>・リプロダクティブケア論</li> <li>・健康教育論</li> <li>・健康教育技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域母子保健</li> <li>・地域助産ケア論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産管理学</li> <li>・周産期リスクマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産実践基礎実習</li> <li>・マタニティケア実習</li> <li>・分娩介助技術実習</li> <li>・継続事例実習</li> <li>・助産実践実習Ⅰ</li> <li>・助産実践実習Ⅱ</li> <li>・周産期ハイリスク実習Ⅰ</li> <li>・周産期ハイリスク実習Ⅱ</li> <li>・地域実習</li> <li>・助産管理実習</li> </ul>

## 学生の声 1 愛仁会看護助産専門学校を選んだ理由



私は4年制の看護大学を卒業後、本学へ入学しました。看護大学では助産課程を取得することができましたが、私は本学への入学を志しました。本学のオープンキャンパスに参加し、在校生や教員の方々の雰囲気魅了されました。厳しいカリキュラムの中、助産師になるという強い意志を持つ在校生の方々と、その気持ちを支える教員の方々の雰囲気を見て、安心感を覚えました。また、受胎調節実地指導員やNCPRだけでなく、他校にはないALSOなど、臨床に出てから役立つ資格の取得ができることも、私にとっては魅力に感じました。

看護大学に通っていたため、当初は大学院への進学を考えていました。しかし、看護学科であまり技術演習などが行われなかったことに不安を感じ、演習等のサポートが充実している学校を探すようになりました。オープンキャンパスに参加し、学生と教員の距離が近く、演習の設備も充実していたため、とても魅力的に感じ、受験を決めました。



# 講義

愛仁会グループの周産期母子医療センターで勤務する臨床経験豊富な産科・小児科医師、助産師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士等と、開業助産師や地域のさまざまな場で活動する助産師など約30名の講師と専任教員が講義を担当します。

講師の約8割が愛仁会グループの実習施設に勤務しているため、学校の教育理念や教育目的・目標を深く理解して、実習を想定し内容を精選した講義になります。

母性看護専門看護師、遺伝看護専門看護師、新生児集中ケア認定看護師の資格をもつ講師もあり、最新の臨床症例に基づいたより実践的かつ専門的な知識を得ることができます。助産師にとって重要な「聴く力・伝える力」の基礎を培うために、グループ学習でディスカッションする機会も多く作っています。



# 実習

助産師に必要な知識と技術を数多くの事例から学び、実践力の基礎を習得できるように実習を設定しています。

## 実習施設

- ・病院：総合(地域)周産期母子医療センター  
回復期リハビリテーション
- ・産前産後ケアセンター
- ・保健センター
- ・助産所
- ・小学校



# 演習

助産に必要な基礎看護技術を含め、妊産褥婦・新生児の診察技術とケア技術、分娩介助技術、健康教育技術(個別、集団)、受胎調節実地指導技術など、テクニカルスキル習得に向けて演習時間数を多く設定しています。すべての技術が習得できるよう、実習前後に到達状況に応じて個別にサポートしていきます。

臨床場면을状況設定した事例演習も実施しています。実習施設の指導助産師の参加協力によって、学生一人一人が模擬実践して実習に臨めるように演習方法も工夫しています。学生3~4名、指導助産師、教員が一つのグループになり、お互い意見交換をしつつ、きめ細やかな助言を受けられます。



## 学生の声 2 普段の学校生活について



育児をしながら久しぶりの学生生活を送っています。とにかく忙しくて大変ですが、憧れの助産師になるために、仲間と一緒に勉強できることが楽しく、とても充実した毎日です。家事や子どもとの時間は少なくなりましたが、家族のサポートを得ながら両立できるよう努力しています。助産学科は1年しかなく、不安に感じることもありましたが、講義は分かりやすく、質問もしやすい環境です。実習では多くの妊産褥婦さんに出会うことができ、助産師としての幅広いケアを学ぶことができます。その日々の中で、自分の助産師像が少しずつ固まってきたように思います。

講義・演習では、グループワークも多く、実習でお世話になる先生や先輩方が来てくださり、臨床での内容も含めて親身になって教えてくださるので、とてもわかりやすく理解を深められました。実習では、助産診断を考える上で重要な根拠がとらえられるよう、なぜそうなるのか、そうするのかを自分で理解できるように指導者の方々が引き出してくださいました。少人数なので教員との距離も近く、コミュニケーションを多くとることができ、私の助産観を尊重した教員の支援を受けることができました。



# 愛仁会グループの 主な実習施設紹介

愛仁会は、1958年に医療法人として設立され、現在では大阪と兵庫に急性期病院4施設、回復期病院2施設、介護施設8施設、健診センター2施設、看護専門学校2校等を有する職員数6,500人の社会医療法人です。

## 愛仁会グループ～助産学実習を受け入れるうえで大切にしていること～

- ① 将来の助産を担う後輩を全力で支える
  - ② 学生と一緒に学ぶ
  - ③ 的確な助産診断をもとに、妊産褥婦のニーズにそったケアができるよう支援する
- すべての助産師が指導者であり、ともに学ぶ姿勢での関わりがあります。**

下記3病院の助産関連情報	
分娩件数	約4000件
院内助産	約500件
院内助産でのローリスク	
MFICU・NICU・GCUでのハイリスク	
全員で助産師	200名、うち4割がアドバンス助産師

### ▶ 千船病院

大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号  
 ・地域周産期母子医療センター  
 ・大阪府がん診療拠点病院  
 ・地域医療支援病院

診療科: 21科	病床数: 308床
●産科・小児科: 60床	●MFICU: 6床
●NICU: 15床	●GCU: 20床



### ▶ 高槻病院

大阪府高槻市古曾部町1丁目3番13号  
 ・総合周産期母子医療センター  
 ・小児救命救急センター  
 ・地域医療支援病院

診療科: 29科	病床数: 477床
●産科: 39床	●MFICU: 6床
●NICU: 21床	●GCU: 27床



### ▶ 明石医療センター

兵庫県明石市大久保町八木743-33  
 ・地域周産期母子医療センター  
 ・地域医療支援病院

診療科: 18科	病床数: 382床
●産科: 25床	
●NICU: 6床	●GCU: 10床



# さまざまな場で 活躍する卒業生

## 卒業生の声 1

樋口 美貴子 咲月助産院 2004年卒業



私は病院の夜勤パートで助産業務をしながら、自宅の一室を助産院として開業し、病産院で出産する母子の産前産後の支援をしています。開業のきっかけは、双子を出産された核家族産婦さんとの出会いでした。退院後の生活は本当に大丈夫だろうかと悩み、地域でも支援したいと考えようになりました。開業前は、もっと知識や技術を身につけてからでないと…と反込みした時もありましたが、経験する中で母子から学び、成長させてもらおうという思いに至り開業を決めました。情報過多な時代であり、自分で解決できる反面、この選択で本当にいいのかと悩む時「病院で会った助産師にその後も相談できる」のはとても意義あることです。そして、このスタイルで母子の応援ができる助産師の仕事が、私は大好きです。

## 卒業生の声 3

山中 明香里 京都第一赤十字病院 2022年卒業



元々販売の仕事をしていましたが、上司が流産した経験を目の当たりにしたことをきっかけに、女性に寄り添う仕事がしたいと思い助産師を志しました。現在は京都の総合周産期母子医療センターの産婦人科・混合病棟で働いており、女性のライフサイクルに関わりケアできる喜びを日々感じています。そうしたやりがいを感じられるのは、知識や技術を確実に身に付けることができる環境はもちろん、助産師として妊産褥婦さん・新生児と関わる姿勢や責任を教えてくださいました愛仁会で学生時代を過ごせたからです。そうした大切な経験を忘れずに女性のサポートができる助産師をこれからも目指したいと思います。

## 卒業生の声 5

新谷 菜々穂 明石医療センター 2024年卒業



講義や演習を通して、助産師としての基礎をしっかり学び学ぶことができました。実習施設等、恵まれた環境の中で1年間学ぶことができたおかげで、今自信を持って働くことができています。妊娠、出産、育児、今しかない瞬間に携われることに感謝しながら、日々母子と向き合っています。助産師として、新しい命の誕生の瞬間に、立ち会える喜びと責任を感じながら、「助産師があなたで良かった。」と感じていただけるように、一人一人に寄り添いサポートすることに努めています。

## 卒業生の声 2

菅家 由紀子 社会福祉法人 積慶園 乳児院 積慶園 2006年卒業



私は保育士として乳児院に就職後初めて助産師という職業を知り、妊娠・出産について知りたいと思い、翌年助産学科のあるこの学校を受験しました。晴れて助産師になり、高槻病院では母乳育児を通して母親が育児への自信を取り戻す伴走者となるようになってきました。時は経て、産前産後ケアは乳児院でも必要とされるようになりました。乳児院の役割には予防的支援機能(産後ケア、妊産婦等の生活援助)があります。妊産婦支援ができる助産師が乳児院事業に携わるとは社会的養護を必要とする子どもの支援にもつながります。高槻病院での経験は、再び乳児院へ戻った今でも糧となっています。助産師は母子支援に欠かせない職業だと自負しています。これからも地域にいる母子への支援を続けていきたいと思っています。

## 卒業生の声 4

徳田 麻希 高槻病院 2002年卒業



卒業後は高槻病院に就職し、あらゆる年代の女性や新生児へのケアを通して助産師として充実した日々を過ごしています。産科の副主任、主任、看護科長を経て、現在は、NICU病棟の看護科長として助産師・看護師教育に携わっています。助産師としてのキャリアの幅を広げるためのサポートができることに、日々やりがいを感じています。ここでは、助産学生として基礎的能力を養った後に、法人施設へ就職することで、アドバンス助産師の支援のもと、助産師教育プログラムに沿った継続的な学習と実践を積み重ねることができました。「愛仁看護助産専門学校で学んでよかった。愛仁会に就職してよかった。」と心から思えるような助産師教育プログラムを準備して、みなさまをお待ちしております。

## 卒業生の声 6

羽賀田 千晶 愛仁看護助産専門学校 看護学科 2010年卒業



助産師は女性が母親になり、よりよい親子関係・家族関係の構築にむけてサポートする職業であり、家族のはじまりに関わる重要な職業だと感じています。命が誕生するかけがえない瞬間に立ち会えることは、本当に助産師という職業を選んでよかったと思える瞬間です。しかし出産がゴールではなく新たな家族の始まりであり、それぞれのご家族に応じたケアが必要となります。そのため妊娠から分娩や育児を見据えて、妊婦さんやご家族の支援を継続的に行うことの重要性を実感しています。私は助産師となってから、多くの妊産褥婦さんやそのご家族と出会い、一緒に考えることを大切にしてきました。その一つひとつの出会いや経験が、私の助産師としての糧となっています。今は教員として、学生と一緒に考え、未来の助産師仲間になれるようサポートしたいと思っています。

# 施設紹介

助産実習室



分娩室



診察室



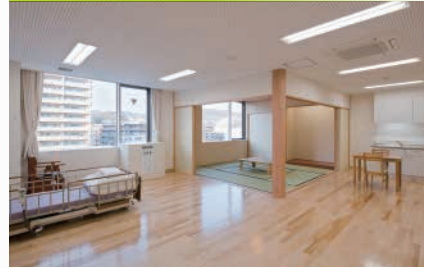
教室



ゼミ室



在宅実習室



情報科学室



ナイチンゲールホール



視聴覚室



図書室



ラウンジ



カウンセリング室



# Q & A

**Q** 専門学校(本校)と看護大学(助産学専攻)との違いについて教えてください。

**A** カリキュラムでの科目時間数や実習進度の違いがあります。本校では、基礎から応用に段階的に学べるように講義と実習を交互に行い、確実に実践力が積み重なるよう計画しています。大学では、看護学の授業や実習施設の都合により、集中または分散して計画が立てられていることが多いようです。



**Q** 学生の背景について教えてください。

**A** 関西圏出身の方が多いですが、北海道から沖縄まで全国から来られます。出身看護学校は、3年課程の専門学校を卒業して来られる方が多いです。看護大学卒業の方が半数、5年一貫校卒業の方がいる年もあります。看護師経験がある方の人数は年度によって異なります。

**Q** 関西圏外の出身の場合の住まいについて教えてください。

**A** 学生寮はありませんので、通学に時間を要する方は学校近隣で一人暮らしをされています。病院実習では、千船病院、高槻病院、明石医療センターの3施設に行きます。明石医療センターでの実習の際には、寮で生活することも可能です。夜間や土日に分娩実習する場合は、学生待機室が使用できます。

**Q** 入学試験について教えてください。

**A** 公募制推薦入学試験(11月)と一般入学試験(1月)があります。一次試験は基礎看護学、母性看護学、小児看護学の筆記試験になります。二次試験は小論文と面接です。詳細は募集要項をご参照ください。

**Q** 子育てしながらの学生生活について教えてください。

**A** 講義時間外にグループワークや技術練習をする機会が多いこと、実習では分娩が終了するまでケアを続けることもありますので、ご家族のご理解とサポートが絶対不可欠です。これまでの卒業生は、苦勞したこともあったようですが、家事、育児をうまく調整し、学習時間を確保しながら学業を全うしていました。

**Q** 卒業後の進路(就職)について教えてください。

**A** 9割以上の学生が実習施設である愛仁会グループの病院へ就職します。その他へ就職する学生は1~2名です。

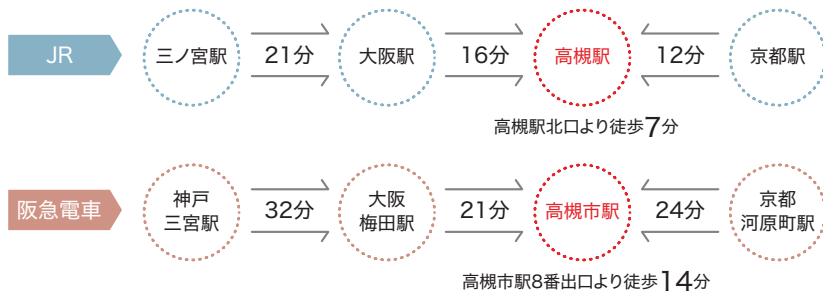


## 学生の声 3 1年間のカリキュラムを終えて

- 授業カリキュラムが充実しており、他校にないハイレベルなことまで学べました。
- 憧れていた助産師に向けて勉強ができることに喜びを感じながら、同じ目標を持つ仲間のおかげで、この1年間を乗り越えることができました。人生の中でとても大切な財産だと思います。
- 多忙な生活を送る中で、多重課題をこなす能力が身につきました。
- やるべきことの優先順位を考えたり、隙間時間に自分のストレス解消法も見つけることができ、自分自身の成長につながりました。
- 自分自身と向き合い、自分の強みにも気づくことができる、何物にも代え難い充実した1年だったと思います。この1年がこれからの糧になると思います。愛仁会で学べて本当に良かったです。



# ACCESS



TEL:072-681-6031(代表) FAX:072-681-6035

〒569-1115 大阪府高槻市古曽部町1丁目3番33号



愛仁会看護助産専門学校

Aijinkai Nursing and Midwifery School

web site

Instagram



AJK\_1988